



あ、これだ、というコトバに出会った時、人は心が躍る。「一番憎むべき狂気とは、今ある人生にただ折り合いをつけ、あるべき姿のために戦わないことだ」。ドン・キホーテの台詞は続く。「事実

は真実の敵なり」(「ラ・マンチャの男」より)と。  
07年秋、境内に新しい地藏堂「ちいほの産屋」を立ち上げた。老朽化した古い地藏堂は、そのままでは屋根も床も落ちる。時間の問題であった。地藏堂の再建か、ああ、たいへんだなあ、と深いため息が出た。次の瞬間、ちよっと

### ちいほの産屋

永田 円了  
真国寺住職



待てよ、地藏堂という既成概念(事実)にこだわらなければどうなる、と持ち前のアマノジャクが出てくる。

地藏さまを安置するというメーンな目的は守る。でも、もっと何かできないか。社会的に有効利用できる空間を創れるはずだ。心の中にエネルギーがわき上がってくるのが分かった。よし、この新・地藏堂を「ちいほの産屋」と名付

けよう。そして地藏堂再建作業を始めた。

趣旨を文章にし、境内にお墓をもつ方々に募金を募った。手応えはあった。延べ20坪の地藏堂のうち、6坪が44体のお地藏さまを安置する空間になり、残り14坪が「ちいほ茶屋」というカフェに変身した。このアイデアに900人もの方々の賛同を頂いた。

「ちいほの産屋」の名前は古事記から拝借した。イザナギがへ見るな」の禁を破って妻イザナミの逆鱗にふれる。逃げる夫に妻は「愛しき夫よ、そんなことをするのなら、私はあなたの国の人たちを毎日千人絞め殺してやる」と叫ぶ。夫イザナギは「愛しき妻よ、

おまえがそうするなら、私は毎日千五百人の子どもを生む産屋を建てよう」と答えた。千五百と書いて「ちいほ」と読む。「ちいほの産屋」とはこのコトバより拝借したものである。

千人というイザナミの怒りに対して、千五百というよりおおきな絵を描いたイザナギの中に、私はドン・キホーテの姿を見る。世間の目や既成概念に捕らわれず、相手よりもっと大きな絵を描き、自由な発想で未知なる何かを生み出す。「ちいほの産屋」をそんな場にしたかった。

人は何か無限なもの(真実)に関係するとき、エネルギーは生き生きと燃え、逆に目先の現実(事実)のみに生きたとき、エネルギーは浪費される。これは確かな心理学者ユングのコトバだったか。

## 発想自由に地藏堂再建